

秋田職訓短大。建設工事スタート

緑のキャンパスで磨く『創造力』

「秋田職業訓練短期大学校(仮称)の建設工事が今月から始まります。二十一世紀を担うテクニシャン・エンジニア(実践技術者)を養成するこの職訓短大、平成五年四月に開校の予定です。

スリーゾーンの ゆつたりキャンパス

職訓短大建設地は扇田道下の市有地で、市の苗畑などがある

た場所です。敷地面積は約五万五千平方メートル。これは長根山陸上競技場の二・五倍ほどの広さです。キャンパス設計での基本的な考え方は、緑豊かで地域の人々に愛されるような、そして学生の心のふるさとなること。敷地内の苗木等を十分に活用し、キャンパス全体に緑を豊富に取り入れた人に優しい空間づくりを目指しています。



キャンパスは校舎ゾーン、グラウンドゾーン、学生寮ゾーンの三つに範囲設定され、グラウンドを中心に配置、東側に校舎、西側に学生寮が置かれる計画です。校舎は本館(四階建て)、実習棟(二階建て)、学生ホール、体育館などが置かれ、体育館の広さは市民体育館と同じくらい。隣接してテニス

コート(二面)も設置されます。ホールは食事やコミュニケーションのスペースで、壁や天井の仕上げには秋田杉が使われることになっています。また、学生寮は全室個室で収容人員六十人。可動間仕切り壁で男女定員を調整できるようにするほか、トイレや浴室は体の不自由な人でも大丈夫なように設計されています。

一面芝で覆われ、たくさんのお桜が植えられるキャンパスは、学生にも市民にもやすらぎを与えてくれそうです。

『実学融合』 独自の教育システム

二十一世紀に求められるのは「創造力」と「技」です。職訓短大では知識・技術・技能をそれぞれ独立した形で学ばせるのではなく、それらを有機的に結び付けた「実学融合」の独自システムで技術者を養成します。

〈機械系〉 生産技術科
先端工作機器のシステム化を



追求し、新素材加工からロボットの開発、工作機器の設計等までトータル・エンジニアを育てます

〈電気・電子・情報系〉
電子技術科・情報処理科
最先端設備をふんだんに使用し、あらゆる産業の即戦力になりえるエンジニアを養成します

〈建築・インテリア系〉
住居環境科・産業デザイン科
アートとテクノロジーを融合させ、豊かな創造性と多角的視野をもつ技術者を育成します

やわらかな「頭脳」を養い、確実な「腕」に鍛え上げる二年間。緑豊かなキャンパスが学生たちを温かく見守ります。

長 市リポート



No.11

中心商店街整備

大館にはいくつもの商業地域・商店街がありますが、今回特に大町地区を考えてみると、現在のこの地区では駐車場整備と良好なまちづくりという二つの課題が前面に出てきています。

一つ目の駐車場整備については、現状では何といてもアクセス(出入り・交通手段)が足りませんから、だれが来てもらっても駐車できるような態勢を徹底してとらなければなりません。また、まちづくりという点では、国の補助事業である「まちなみデザイン推進事業」を活用しながら、地元の皆さんと一緒に再開発・近代的商店街形成に向けて調査等を始めたところです。

いづれにしても、行政サイドが実現に向けて努力するのももちろんですが、つくったかどうかというのを併せて、地元商店街の内部でも、例えばライブハウスのような必要とないかなど、積極的に意見を出し合っていってほしいと思います。

小畑 元